

## 2014 年度 第 3 回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 平成 26 年 9 月 11 日(木) 15 時 15 分～18 時 00 分
2. 場所 神戸国際会館セミナーハウス
3. 出席者 多田元英, 井戸田秀樹, 一戸康生, 岡崎太一郎, 岡本哲美, 向野聡彦,  
(敬称略) 河野昭彦, 田川泰久, 竹内 徹, 玉井宏章, 寺田岳彦, 中込忠男,  
成原弘之, 平島岳夫, 藤田正則, 増田浩志, 緑川光正, 見波 進,  
宇佐美徹(記録)  
欠席:稲岡真也, 越智健之, 笠井和彦, 木村祥裕, 澤本佳和, 吹田啓一郎,  
田中 剛, 西山 功, 原田幸博

## 4. 配付資料

- 03-01 2014 年度第 3 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)  
03-02 2014 年度第 2 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)  
03-03 2014 年度第 2 回構造本委員会議案(多田主査)  
03-04 2014 年度第 2 回鋼構造座屈小委員会議事録(案)(井戸田委員)  
03-05 鋼構造接合小委員会(増田委員)  
03-06 2014 年度第 2 回鋼構造制振小委員会 議事録(案)(緑川委員)  
03-07 鋼構造耐火設計小委員会第 21 回議事録(案)(平島委員)  
03-08 鋼構造環境小委員会 2014 年度第 2-4 回議事録(藤田委員)  
03-09 2014 年度第 3 回鋼構造素材小委員会議事録(案)(見波委員)  
03-10 2014 年度鋼構造塑性設計小委員会第 2 回議事録(案)(玉井委員)  
03-11 鋼構造関連規準・指針の英文化 WG (岡崎委員)  
03-12 欠番  
03-13 鋼構造関連規準・指針の英文化 WG 重点審議資料(岡崎委員)  
03-14 欠番  
03-15 質疑回答の一覧(井戸田委員)

## 5. 議事内容

- (1) 資料 03-02 に基づき前回議事録の確認がなされた。
- ・ その他の西山委員のトピックスで, 見直しがあるのは”荷重”だけでなく, ”荷重と耐力”に修正のこと。
- (2) 多田主査より構造本委員会の報告がなされた。
- ・ 2015 年度 PD の企画書の提出を吹田委員に依頼した。締切は 10/31 である。
  - ・ 藤田委員の刊行企画書が本委員会で承認された。査読者は吹田委員と佐藤委員である。タイトルが指針として長くてやわらかいので再検討の依頼があった。
  - ・ 「東日本大震災合同調査報告 建築編 3 鉄骨造建築物/シェル・空間構造」が刊行された。
  - ・ 素材小委員会の村山委員の解囑と千葉委員の委囑が承認された。

(3) 資料 03-04~03-11 に基づき各担当委員より小委員会およびWGの報告がなされた。

座屈小委員会(資料 03-04, 井戸田委員)

- ・ 座屈指針改定に当たり用語(例えば細長比)の統一を考えているが、小委員会間でも調整を図ろうと思う。(井戸田委員)  
→指針間での統一は難しいと思う。
- ・ ブレースの首折れ破壊を接合部設計指針に盛り込んでほしい旨を増田委員に伝えた。

接合小委員会(資料 03-05, 増田委員)

- ・ 高力ボルト接合設計施工ガイドブックの運営委員会査読の修正が終わったので、本委員会査読に移行する予定である。

制振小委員会(資料 03-06, 緑川委員)

- ・ 原稿の修正作業の進捗状況を報告。

耐火設計小委員会(資料 03-07, 平島委員)

- ・ 指針の改定に間に合わなくても 2015 年度以後に PD を実施してはという意見があった。

環境小委員会(資料 03-08, 藤田委員)

- ・ 10 月に運営委員会査読の予定である。

素材小委員会(資料 03-09, 見波委員)

- ・ DB の利用規約の紹介があった。9 月末に公表の予定である。  
→運営委員会は承認  
→サーバーが山田先生の管理下のものであることを含め、今後の手続きを事務局に確認のこと。(多田委員)

塑性設計小委員会(玉井委員), 鋼構造関連規準・指針の英文化 WG(岡崎委員)

- ・ 特になし。

(4) 本年度大会 PD の質疑応答について玉井委員より説明がなされた。

(5) 重点審議として、資料 03-13 に基づき岡崎委員より鋼構造設計規準の英文化作業について説明がなされた。

- ・ 英文化するのはどのような目的か。誰が何の目的に利用するのか。(竹内委員, 寺田委員)  
→日本で働く外国人または海外で働く日本人が利用する。(多田主査, 竹内委員)  
→日本のオリジナルの指針を紹介するのが目的であれば、新たな知見を入れてはどうか。(竹内委員)  
→建築基準法があり、その上で鋼構造設計規準が整備されたことを説明する必要がある。  
→これからの指針のあり方を見直すきっかけになればよいと思う。(緑川委員)

- ・ WG からの質問事項に対して議論がなされた。

質問	回答	質問	回答
1	補足する文言を加筆.	2	溶接個所は全体を示す.
3	突出長さは図示する.	4	検定の表現は意識する.
5	片側 4 枚以下.	6	小梁間の弦材の面外座屈を示す.
7	意識のこと.	8	有効面積はリブ面積を加算.
9	溶接の種類をカッコ書きとする.	10	接合指針に倣う表現とする.
他	繰返し応力の解説は残す.		

- ・ 鋼構造設計規準の次はどうするか議論がされた。
- ・ 出版企画書は不要であるが、本委員会査読は有る。手続きは事務局に確認のこと。  
(多田主査)

(6) 資料 03-14 に基づき井戸田委員より学会図書の質疑回答の報告がなされた。

## 6. その他

- ・ 主査の選挙を実施する，事務局に手続きを確認し，郵送で連絡する。(多田主査)
- ・ 鉄鋼連盟の研究助成を開始したので応募してほしい。(一戸委員)
- ・ 今後の重点審議は次の通り。
  - ◇ 第 4 回運営委員会:なし
  - ◇ 第 5 回運営委員会:素材小委員会
- ・ 今後の運営委員会の日時，場所は以下の通り。
  - 第 4 回 2014 年 12 月 1 日(月)，13:00-17:00，於:建築会館
  - 第 5 回 2015 年 3 月頃